

発行 2020年3月11日

発行者 日本笑顔プロジェクト本部

代表 林映寿

〒381-0211 長野県上高井郡小布施町

雁田 676 浄光寺内 電話: 026-247-3924

制作 燕遊舎

日本笑顔プロジェクト台風19号復興支援活動 Report

ATV 四輪バギー講習会開催



2019年10月の台風19号発生後、さまざまな支援活動を行うなかで、日本笑顔プロジェクト(笑顔P)がとりわけ力を注いだのが農地復旧支援です。そこで笑顔Pでは「重機オペレーター100人育成プロジェクト」に続き、2020年2月20日、ATV(全地形対応車)四輪バギー講習会を実施しました。水害の被災地ではぬかるみがひどく、一般車両での走行が困難。物資輸送や現場連絡などに、どんな悪路でも走行可能なATV四輪バギーが必要と判断したのです。

3.11の教訓を生かして

笑顔P発足の端緒となった2011年3月11日の東日本大震災。笑顔Pの林映寿代表は、支援活動のため宮城県を訪ねた際に、すさまじい瓦礫の山や、四輪駆動車があっけなくスタックする状況を見て、「普通の車両では思うように移動することができない。あらゆる悪路に対応できる車両が必要だ」と感じました。

インターネットで調べたところ、大排気量のATV(全地形対応車)四輪バギーを発見。車両を扱う株式会社RSS高喜屋(新潟県南魚沼市)さんへ実物を見に訪れました。太く堅牢なタイヤ、重厚なボディ。林代表は一瞬でATV四輪バギーに惚れ込みました。

善は急げと650ccの車両を購入し、早速初乗り。「なんだか、自分が強くなったような気がする!」。地面の凹凸はもちろん、岩や倒木などが散らばる傾斜地、ぬかるみなど、かなりの悪路もバワフルに走破するATV四輪バギー。「これなら災害時に必ず役に立つ。日常では、浄光寺の裏山整備にも活用できそう!」

翌2012年には、小布施町の千曲川河川敷でATV四輪バギーを活用したシミュレーションを実施。バギーの走破性や排気量によるマシンの違いを体感しました。併せて、災害時の炊き出しを想定し、堤防にテントを張って、煮込みうどんを食べる試みも。

それから7年を経た2019年10月。台風19号後の農家支援活動の折、広いエリア内での各活動拠点の移動に利用したり、複数の炊き出し拠点をつなぐ移動・運搬、カーゴトレーラーを牽引してのゴミ回収に出動したり。実際の災害現場で、ATV四輪バギーの利便性が実証されてきました。

現場活用を想定したリアル講習!

そして2020年2月20日、ATV四輪バギー講習会を開催。「農地復旧活動でも活用する場面が出てくるだろうこと、また今後の有事の際にも有用となるだろうことを想定して開催を決めました」と林代表。

基本的に公道を走ることができないATV四輪バギーには、運転免許証は不要。ただ、



学科講習の1コマ。株式会社RSS高喜屋社長の高橋盛行さんが、急勾配の坂を登る場合の注意点を説明。

相当な悪路を安全かつスムーズに走行するには、さまざまな路面状態での乗り心地や操作感を体験しておくことが必要です。そこでリアルな現場活用を想定した講習内容を組み立てました。

集まった受講者は、小布施町と近郊から、長沼地区で長期活動中のボランティアさんや主婦、大学生、介護福祉士、消防署職員、農家など、計9人。まずは座学による学科講習から。講師はATV四輪バギーのエキスパートであるRSS高喜屋社長の高橋盛行さんです。バギーの構造やエンジンなどの仕様、操縦・操作方法といった基礎に始まり、悪路や急勾配地でのライン(走行路)取り、事故やケガのリスク、ウインチの活用方法など、実地で必要な知識をしっかりと学びました。



高橋さんによる実技指導のようす。バギーで窪地に入り、どれくらいの状況までの走行可能かなどを解説。この程度はまだまだ余裕です。

窪地、山、傾斜地……。苦戦しながらも楽しく技能習得

学科講習に続いては、お楽しみの実技講習。引き続き高橋さんが講師を務めてくださいました。初めに、車両の構造やエンジンのかけ方、スロットルレバーなどの操作方法のレクチャー。そしていよいよ実践です。

講習用の車両は、RSS高喜屋さんから2台、白樺湖から笑顔Pのボランティア活動にご参加くださっているオーナーさんから1台をお借りし、林代表が所有する1台を加えた計4台を使用。500cc、570cc、650cc、1000ccと、排気量の異なる車両を揃え、乗り心地や操作性の違いを体験できるとともに、約3時間の講習でできるかぎり運転技能を会得していただけるようにと、ゆとりある態勢を整えました。

事前に深い窪地や土を盛り上げた山、急勾配地などを設けておいた専用コースで、エンジンを始動し、ゆっくりと走行開始。徐々に体を慣らし、斜めに傾いた地形では、タイヤの傾きやサスペンションなどの動きを確認しました。

高く盛り上げた土の山を乗り越える場面では、想像を超える車体の傾きに苦戦すること。それでも講習後には、全員がかなりの悪路走行技術を身につけることができました。

笑顔Pでは今後も、バギー講習会を開いていく予定。すでに大手企業からも注目されており、日程調整と態勢づくりを進めています。また復旧支援活動では、ATV 四輪バギー

を活用して、千曲川河川敷のゴミ回収などを行っていく計画です。林代表は「バギー講習会修了者のみなさんには、復旧作業への積極的なご参加をお願いしたいと思います。また今

後受講される方々へのサポートや指導、ライフアミューズメントパークnuovoのオープン後にはバギー講師も担っていただけるとうれしいです!」と話しています。

バギー講習会を体験して―須坂市・小林潤さん

須坂市の消防署に勤務する小林潤さん。長野市の被災地で復旧活動に参加していたところ、笑顔Pの重機講習会を知って受講、重機オペレーター資格を取得され、小布施町内での農地復旧支援にもご参加くださっている方です。小林さんに、今回林代表からの誘いを受けて受講されたバギー講習会の感想などを伺いました。



若き現役消防士さんとあつて、小林さんは上達が早い! 1000ccの大排気量マシンも安定した扱いで乗りこなしておられました。

れて理解を深める必要がありそうです。

――今後バギー運転の技能をどのように活用していきたいですか?

仕事上で提案できる場面があれば、実際体験もさせてもらっていますので説得力のある説明につながるものと感じています。

また、バギーを体験し知見を得たことと、林代表がバギーで移動できる能力をもっておられると知ったことは、今後の私の災害支援活動において大きな意味があると思います。「ここはバギーが有効だ!」という場面が訪れたら、即、林代表に連絡したいと思います。

――台風19号で被災された方々や地域住民の方々へ、ひとこと。

このたび被災されたすべてのみなさまに、心よりお見舞い申し上げます。一日でも早く平穏な生活に戻るようお祈りしております。

「バラを献じたる手に余香あり」ということわざがあります。「他人に対して善を行っているとき、自分に対して最善を行っている」ということなのです。人のために尽くしている時間と流した汗は、とてもすがすがしく晴れやかで、心が浄化された気持ちになります。

支援という形でお手伝いをさせていただく中で、私自身も勇気づけられ、笑顔にさせてもらえました。これからもこの笑顔を忘れることなく、自分にできることを精一杯やらせていただきたいと思います。

貴重な機会をくださった笑顔Pに感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

今も全国で支援を行っているみなさまのご活躍と安全、被災地の復興を強くお祈りします。

――台風19号発生後、どのような支援活動をしてこられましたか?

2019年10月12日の夕方ごろ、勤務先に招集され、深夜まで水害対応をしました。須坂市ボランティアセンター(ボラセン)の開設後は、同市内の被災地で連日支援活動を続けました。

長野市ボラセンが開設されたころ、「軽トラが足りない」との報道が盛んでした。私は軽トラ作業ができるので、同ボラセンを通して長野市の被災地で活動するようになりました。

当初ボランティア活動に行くときにはいつも、子供のころ、教室の中で窓際の花瓶が落下し割れて散乱した時の感覚を思い出していました。教室の一部の床が濡れ、割れたガラスもあって危険なので、みんなで集まって片付けている。そんな感覚です。なかには見ているだけの子や気付かずに遊んでいる子もいたと思います。当時、自分が率先して片付けていたかは思い出せないのですが。

消防士になって19年、今の私は少しだけ、助ける力を身に付けています。さまざまな経験から、「その場に居合わせたなら、助けることを躊躇したり怠ったりしないようにしましょう。同じ道は二度と通らないのだから」と心に決めていました。救命講習などでも、そのようなお話をさせていただいていますので、「今でしょ!」という気持ちでした。

お手伝いに伺ったお宅の方から感謝され、心が温かくなりましたが、それよりも、被災されたみなさんの今後を何とかしなければという気持ちが強かったです。

――笑顔Pや林代表との出会い?

長野市の現場では、消防士ということで技術系の支援活動に誘っていただきました。そこで重機資格取得について知り、講習会を受講しました。その講習会場で林代表と出会い、笑顔Pについて知りました。ただ、林代表のことは新聞やテレビで見て、以前から知っていました。初め

てお話ししたときは有名人にお会いしたような気持ちでした。

――重機講習会の受講後、笑顔Pとのかかわりは?

私が資格を取得した後、何度か講習会がありました。消防棒ということでお声掛けをいただき、これまで技術ボラとして活動した経験のある同僚に声を掛けて、資格者養成をしていただきました。資格を取得した同僚と、少しずつですが小布施町の農地の排土作業をお手伝いさせていただいています。

――バギー講習会を受講された感想は?

学科講習では、構造が不整地に特化している点などを、イラストなどを使ってわかりやすく説明していただきました。初めて知る点も多く、とても新鮮でした。



実技講習では、特設コースがすばらしかったです。1台でもカッコいいバギーが、4台並ぶと迫力満点。丁寧な説明をいただき、ゆっくり運転したので、操作自体はスムーズに慣れました。不整地をグイグイ走る感覚がとてもおもしろかったです。オフロードバイクの経験もありますが、バイクに比べてとても安定しているなと感じました。

講習会全体に「ただただおもしろかった」という印象です。受講中、「消防署にも是非配備を」と多くの方からお話いただきました。消防隊はチームで動くので、単独で走行するバギーを活かすには、もっとバギーに触

<支援金のおねがい>

日本笑顔プロジェクトは民間任意団体で、公的資金援助を受けておらず、みなさまからの支援金のみで運営しております。仮設トイレの設置やその後の汲みとり料などにもご支援をいただけますよう、なにとぞよろしくお願い申し上げます。随時SNS上で活動報告をさせていただきます。

日本笑顔プロジェクト 代表 林映寿

八十二銀行(ハチジュウニギンコウ)

小布施(オブセ)支店(252)

口座番号 普通:211038

口座名 日本笑顔プロジェクト
(ニホンエガオプロジェクト)

※口座番号に7桁の指定がある場合は、先頭部分に「0」を入力して、[0211038]としてください。

<支援金付きオリジナルグッズ販売のおしらせ>

日本笑顔プロジェクトでは、災害時の避難生活や支援活動に役立つ知恵や技術を楽しみにつけることができる日本初のライフアミューズメントパーク「nuovo(ノーボ)」を構想、設立準備中です。これに伴い、オリジナルグッズの販売を行なっております。グッズ代金の一部はnuovo設立基金として大切に活用させていただきます。みなさまのご協力を、よろしくお願い申し上げます。詳しくは…<https://egaonowa.net/goods/>